

津島市民病院をブルーにライトアップ

～ 世界糖尿病デー ～

津島市民病院では、「世界糖尿病デー（11月14日）」にちなみ、11月14日から30日まで、病院建物を世界糖尿病デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップします。この取り組みを行っている県下の医療機関は、把握している数で6医療機関。地域住民に糖尿病の予防と正しい理解を呼び掛けるための企画で、今回で3回目の取り組みとなります。

以前に市が実施した意識調査では、糖尿病の検査を受けた市民の2割が糖尿病か血糖値が高いと診断されています。糖尿病は透析患者となる大きな要因であり、市民病院では糖尿病教室を開催し、糖尿病の重症化防止に取り組んでいます。

1 期 間

平成 26 年 11 月 14 日（金）～ 30 日（日）

2 世界糖尿病デーについて

糖尿病の脅威が拡大する中、国際連合は、平成 19 年から毎年 11 月 14 日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養について啓発活動を推進することを呼びかけました。

この運動のシンボルマーク「ブルーサークル」は、国連や空をあらわす「ブルー（青）」と団結をあらわす「輪（サークル）」を意味しています。

3 糖尿病について

平成 24 年度に津島市が実施した糖尿病に関する市民意識調査では、約 50%の方が糖尿病の検査を受けたことがあり、そのうち約 20%の方が「糖尿病」又は「血糖値が高い」と診断されています。

また、この調査では、「糖尿病の人は、狭心症や心筋梗塞などになりやすい」など糖尿病に関する知識を問う設問では、「わからない」と回答している人が多く、合併症や循環器疾患、歯周病などとの関連については、若い世代での理解が少ないことが分かりました。

津島市では、「みんなでつくろう健康つしま」を合言葉として、「あらゆる世代が健康に暮せるまち」を目指しているところですが、こういった結果を踏まえ、「津島市糖尿病大学」や「糖尿病教室」を中心に、糖尿病の予防と重症化防止を最重要テーマの一つとして取り組んでいます。

4 その他

過去に撮影したライトアップ写真を添付